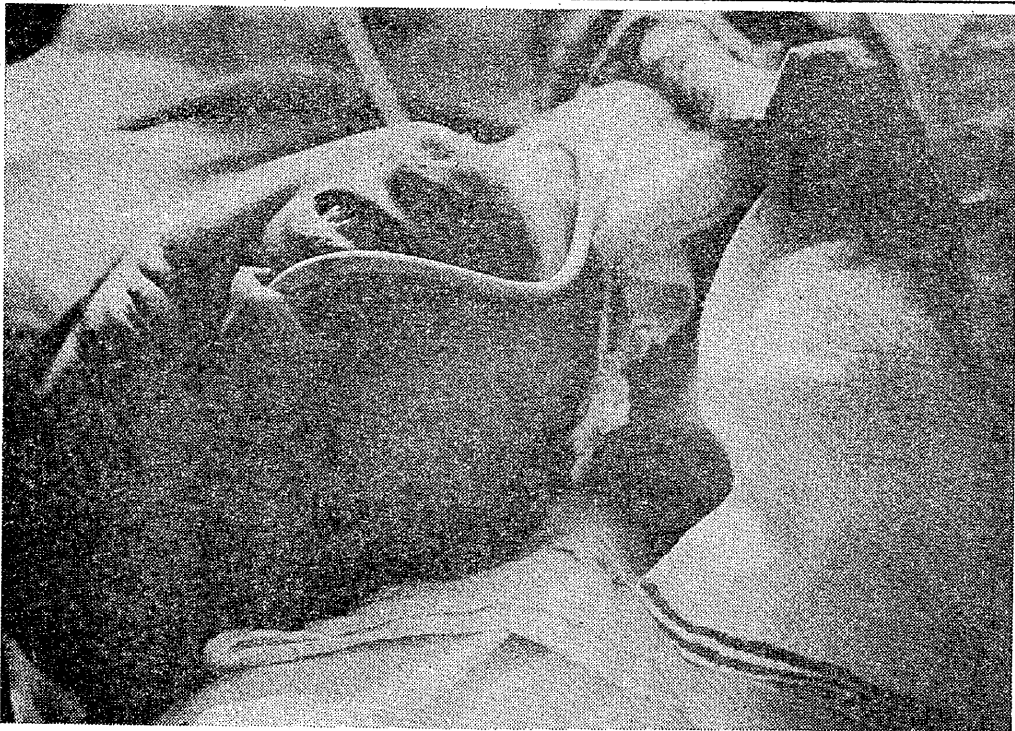




あの日から3年7ヵ月、いままなお意識を忘れたままのCO患者—宮島さんは、三度三度の食事をこうやって鼻からさしこまれたゴム管を通して、流しこんでもらっている。この頃体の具合が悪かったというが……。

真黒くたれた屍
虚空をつかみ上がろうとする
その手は
いつかききと
しあわせをつかむ日のための
差別にすりきれた手だった
「ごめんか姿になつて
おどろかしたから
どげんすつとよかつかい
うちの父ちゃんば返せ
夫を返せ
ゼニはいらん一人息子は
早よう返せ」
(高橋龍生の詩から)
四百五十八名の死者と、八百二
十一名にもなるCO中毒患者と
いう犠牲をだした三川鉦大災害。
あれから三年六ヵ月、青年婦人
三川では反合理化、反戦平和のた
たかひの中で、体制的合理化・階
級闘争への理解を深めるため、そ
してまたCO特別立法をより一層

わが怒り胸の底から

(青婦部三川支部の「CO文集」から)

三川支部 百田アツミ

自分たちのものにするため、熊大
病院のCO患者の見舞いをかねた交
流会が、四月二十三日と五月三十
日に分けて行なわれた。
人間に生まれながら、人間を尊
い去られ、生きる屍にされておら
れる、変り果てた姿の宮島さん、
受川さんに逢っただけで言葉がで
なかった。
「三川支部の婦人部です」と頭
を深く下げたら、もう宮島さんの
ばってん、代理でよかなら、この
具合が悪いとなりますと、こちら
も三年六ヵ月、こげんしてき
るです。私は三年六ヵ月とはい
わん、二ヵ月でよかけん、栗木幹
の息子はベッドに寝かせて、鼻か
らゴム管を通して、食物は流しこ
んでやりたいたとです。この間は
ですね、この息子の具合が悪く
なつて、もう死ぬかと思ひまし
た。かねては、長くは生きるまい
とあきらめてはおるとすけど、
私には本心、心の底から怒
りを覚えた。労働者が元氣なとき
には言葉巧みにひかき、ひとたび
災害にでもあつて、雇人にされよ
うものなら、事業は会社の保安サ
ボのために起きた災害だとわかっ
ていても、一片の責任も取らうと
はしない資本家共の本性を、はっ
きりとつかみました。私たちの生
命は、私たち自信の手で守らな
い、保障されないのだ。
私はたたかいます。「団結」
「抵抗」「統一」の三本線をしっ
かり、胸に抱きしめて全国の仲
間と手をとり合つてたたかいま
す。「果てしない怒りの底から
ぼろぼろ出てくる
ひとかたまりの怒りの炎が
ぐんぐんと押し拡がり
とめどなき炎となつて
地底からつきあけてくる
この悲しみをこの苦しみを
じつとみしめ 仲間たち
立ちあがろう
立ちあがろう
(高橋龍生の詩から)



CO患者に 賃上はない

宮浦 平田次男

明日が絶対必要であることは
知りながら
今日の二円に心が動く
しかもあふない地下産業の
俺たち労働者

に、その手は、足は、ひどく硬直
して、食べものは流動食を鼻から
ゴム管を通して流しこみ、そして
生きなければならぬ。三年と六
ヵ月、いやまだまだこれからは長
い日々を、昼も夜も、また朝
も、鼻からさしこまれたゴム管を
通して流しこまれる流動食に、そ
の生命をささえるが。
私たちは本心、心の底から怒
りを覚えた。労働者が元氣なとき
には言葉巧みにひかき、ひとたび
災害にでもあつて、雇人にされよ
うものなら、事業は会社の保安サ
ボのために起きた災害だとわかっ
ていても、一片の責任も取らうと
はしない資本家共の本性を、はっ
きりとつかみました。私たちの生
命は、私たち自信の手で守らな
い、保障されないのだ。
私はたたかいます。「団結」
「抵抗」「統一」の三本線をしっ
かり、胸に抱きしめて全国の仲
間と手をとり合つてたたかいま
す。「果てしない怒りの底から
ぼろぼろ出てくる
ひとかたまりの怒りの炎が
ぐんぐんと押し拡がり
とめどなき炎となつて
地底からつきあけてくる
この悲しみをこの苦しみを
じつとみしめ 仲間たち
立ちあがろう
立ちあがろう
(高橋龍生の詩から)



この誇りを大切に

私達の頑張りがやがては……

ひまわり 与田喜久枝さん



明るい顔の喜久枝さん

ん封建的でした
また生来、好き
な酒のうえにパ
チンコもするし
けつして一等亭
主といふほどで
はありませんが
した。
ところが三池
闘争後、三池の
闘いも「長期抵
抗」に入つたの
に歩調を合せた
子どもたちも、なんでもほし
さかりなのに、生活をよく理解し
てくれて、あまり無理もいませ
ん。
生活が苦しいという私たちの悩
みも、世間に対して胸を張って
「むき」をはじめれば、米をとい
のか、あなたの姿勢もコロッと変
つたのにおどろきました。
まず、気短かだったあなたが、
さっぱり短気をおこさないよう
になり、私が内職のハタオリ(大島
つむぎ)をはじめれば、米をとい
の、あなたの姿勢もコロッと変
つたのにおどろきました。
まず、気短かだったあなたが、
さっぱり短気をおこさないよう
になり、私が内職のハタオリ(大島
つむぎ)をはじめれば、米をとい

詩を たたみ —ふく 高橋龍生

たたみをつく
かあちゃんを
ふたり
ならんで
背中あわせになつて
ゴシ、ゴシ、ふく
かあちゃん
ふたり
はなしながら
ふく。
目と目がぶつかりあふ
ニンマリ わらわ
いちま
いちま
汚れた落ちていく下から
蘭の匂いが
むせかえってくる
くらした
しみがつかめ
ゴシ、ゴシ、ふく
こんなに
ふたりして
ふくねと
はなしながら
ふく。



夏の食卓

夏は、食卓に野菜サラダは
かかせません。酢醬油にマヨ油を
落とし、トウモロコシのから味をき
かせた中華風のサラダ。みずみず
しい白ウリと青トウモロコシの薄切
りを塩で軽くもみ、フレンチ・ド
レッシングで食べるおとなの味な
どいかに。
夏は二十リットルも汗が出
て、エネルギーを消耗します。冷
たい水を飲み過ぎると胃液をうす
め、胃の活動がにぶり、食欲がな
くなります。水分を補給しながら
栄養のとれる飲みもの、牛乳がよ
く、ビールも適量なら、アルコール
分が新陳代謝を活発にします。
(KNAから)